

ワイズメンズクラブ国際協会

第 31 回アジア太平洋地域大会およびアジア太平洋地域ユースコンボケーション

2025 年 8 月 3 日（日）礼拝

アジア太平洋域 CE 川上直哉

日本基督教団石巻栄光教会 牧師

Rev. Dr. Naoya Kawakami, CE

新しい歌を主に向かって歌え。

全地よ、主に向かって歌え。

主に向かって歌い、御名をたたえよ。

日から日へ、御救いの良い知らせを告げよ。

国々に主の栄光を語り伝えよ

諸国の民にその驚くべき御業を。

Sing to the LORD a new song; sing to
the LORD, all the earth.

Sing to the LORD, praise his name;
proclaim his salvation day after day.

と一緒に、「アメイジング・グレイス（讃美歌 21・451 番）」を、英語で歌いましょう。

Amazing grace! How sweet the sound!

That saved a wretch like me!

I once was lost, but now I am found;

Was blind, but now I see.

聖書の言葉に耳を傾けましょう。

そこであなたがたは、

もはや異国人でも宿り人でもなく、

聖徒たちと同じ国籍の者であり、

神の家族なのである。

Consequently, you are no longer
foreigners and strangers, but fellow
citizens with God's people and also
members of his household,

Ephesians 2:19

エペソ人への手紙 2 章 19 節

みなさま、おはようございます。川上直哉と申します。日本基督教団石巻栄光教会の牧師をしています。今日は、アジア太平洋地域の CE として、礼拝の時間を担当いたしますことを、非常な名誉と思い、感謝しています。

今日は、資料を用意しました。それを見ながら、どうぞ、お話を聞いてください。

私は石巻広域ワイズメンズクラブの書記をしています。石巻は、ここ・熊本市から、直線距離で 1,100km 北東に向かったところにあります。日本列島では「いちばんハワイに近い場所」と言われています。本州から太平洋に向かって南に突き出した半島とその根元が、私たちの町・石巻となります。

2011年3月11日、巨大な地震が起きました。日本列島の本州の東側一体を、津波が襲いました。原発が爆発しました。それで、この日の出来事は「三重災害」となりました。非常な恐怖が私たちを襲いました。私たちの町・石巻は、その中で、最も多くの犠牲者を出した場所のひとつです。あの地震と津波と放射能で、少なくとも二万人が犠牲になりました。その内の約二割に当たる四千人のいのちが、石巻で喪われています。

石巻は、水産加工場（缶詰などを作ります）がたくさんある町です。そのほとんどすべてが、津波で完全に破壊されました。しかし人々は力を合わせ、知恵を絞って、工場を再建しました。そうした復興への努力の中に、全国・全世界のワイズメンズクラブの働きがありました。

来年、私たちは、石巻で、ワイズメンズクラブ国際協会第 29 回東日本区大会を開催しようと思っています。来年は 2011 年の「三重災害」から 15 年が経つ年です。この 15 年間に振り返り、感謝をもってその働きを総括し、未来への展望を示したい。そのための準備が、今、進められています。

未来への展望、と、今、私は言いました。それは、どのように描けるでしょうか。

多くの支えを受けて、津波の被災地は、きれいになりました。瓦礫は片付き、道路が新しく整備され、そして、工場も再建されました。しかし、そこに、大きな問題が残されています。それは「少子・高齢・過疎」という問題です。この問題は、2011 年の大震災以前から、石巻を含む日本列島本州の東側にずっと問題となっていたものでした。子どもを産み育てる環境を、大人が整備できない。高齢者の人数が、どんどん増える。そして、人々は東京などの大都会に出て行ってしまう。そうした問題は、震災の後、加速度的にひどくなりました。多くの若い人々が、津波の被災地となった石巻を離れてしまいました。今、石巻とその周辺は「毎年三千人ずつ、人口が減る」という状態になっています。この地域の人口は、15 万人くらいしかいません。そこから「毎年三千人ずつ、人口が減る」のです。そこに、たくさんの努力と支援によって、工場が再建されました。問題は、そこからさらに進むのです。つまり、人手不足という問題です。工場が再建されても、そこで働く人が、絶対的に足りない。

今、石巻の水産加工工場に行きますと、若い人がたくさんおられます。そのほとんどは、東南アジアから来てくださっている方々です。特に、インドネシアの方が多くおられます。ずっと、石巻の海岸部は、若者が少なかったのです。しかし、今は、まったく違ってきます。たくさんの若い方々がおられます。

その若い方々の多くは、イスラム教徒です。震災前、その地域には、まったく、イスラム教徒がいませんでした。震災後、急に、イスラム教徒の方々が増えた。モスクが必要になってきました。そして、イスラム教徒のリーダーが立ち上がりました。バングラディシュ人のソヨド・アブドゥル・ファッタさんです。彼は、石巻で友達になった清水さんという方と一緒に、「モスクを作らせてください」と、地域の人々に相談をしました。時間をたくさんかけて、相談を続けました。そして、地域の方々の全員の了解を得て、モスクを作ることが出来ました。そのモスクが、皆さんの手許の資料の表紙、あるいは 16 ページ等に写真で載っています。

国籍が違っていても、宗教が違っていても、同じ現場に生きる人は、互いに努力して、力を合わせる仲間になる。力を合わせているうちに、食事と一緒にする。そうすると、家族のようになる。――今日の聖書の言葉は、そうしたことを語っています。そして、ワイズメンズクラブは、その実践の場になっています。現場に出て行き、困っている

人の友だちになる。一緒に苦勞して、汗を流し、問題解決のための努力を続ける。問題は解決しないけれど、友だちができる。その友達と食事を一緒にする。例会をし、スピーチを聞き、共に励まし合う。そうしてワイズメンズクラブは世界中で活動が続いています。この熊本で、私たちは、そのひろがりの大きさを、慶びをもって確認しているのです。

私も、イスラム教徒たちのリーダーであるソヨドさんと友達になりました。それは 2 年前のことです。そして、昨年、私たちは悲しい大きな問題に遭遇しました。税金や病院の場所を巡る政治の思惑の中で、「外国人問題」を攻撃する声が、宮城県庁に二千件近く寄せられ、インターネットにはイスラム教徒へのヘイトスピーチが溢れました。資料の 2 ページには、そのヘイトスピーチのデモの様子を報道する新聞の記事が写真と共に掲載されています。

私たちは悲しみ、心を痛め、そして話し合いました。今日の歌は、私たちの社会の暗さと情けなさを背景にしています。毎日の苦勞に目と耳をふさがれ、政治的な扇動に煽られて、友達になるはずの人々を憎み、攻撃する。そんな悲しい人間の現実を背景に、今日の歌は作られています。

でも、その悲しい現実は、ふとしたきっかけで、まるで霧のように消えてしまいます。イスラム教徒の方と出会い、共に食事をし、友達になると、「どうしてあんな憎しみを言葉にしたのだろう」と、恥ずかしくなり、不思議に思うようになります。聖書は、「それが、神さまの奇跡だ」と教えます。そして「その神さまの奇跡は、昨日も、今日も、石巻でも、熊本でも、アジア太平洋地域の全体で、全世界で、起こっているのだ」と、教会は語ります。ワイズメンズクラブは、その不思議が本当に起こることの証拠になっています。

私たちの地域には、仙台 Y M C A があります。仙台 Y M C A は、仙台キリスト教連合に参加して、カトリック教会、プロテスタント諸教会、キリスト教学校、キリスト教福祉士施設と一緒に、毎年 8 月に「平和祈禱集会」を企画し続けています。今年は 8 月 10 日の日曜日に行われます。その企画の中で、私たちは、「外国人問題」をあげつらうヘイトスピーチに「平和の祈り」で対抗しようと思いました。戦争と平和について

て、聖書に聴き、祈りを捧げてから、プロテスタントの牧師である私が、日本人ムスリムの方と、トークセッションをします。会場はカトリック教会のカテドラルとなりました。皆様の資料の最後に、そのチラシがごございます。全世界から、オンラインで入ることが出来ます。覚えてお祈りくだされば幸いです。

そこであなたがたは、
もはや異国人でも宿り人でもなく、
聖徒たちと同じ国籍の者であり、
神の家族なのである。
(エペソ人への手紙 2 章 19 節)

Consequently, you are no longer
foreigners and strangers, but fellow
citizens with God's people and also
members of his household,

Ephesians 2:19

ここ、熊本は、素晴らしい場所です。今、ここに、この聖書の言葉は、実現しています。この事は、当たり前のことではありません。これは、神さまの奇跡の出来事です。その背景には、憎しみの闇に閉ざされている世界があるのです。ここから、私たちはまた、自分の現場に戻ります。そこで、私たちは闇の中に光を投じましょう。それは、神さまの貴い御業に参加することです。神さまの働きに加わるのですから、困難があっても、希望があります。互いにその希望を確かめ合い、励まし合いつつ、私たちは進んでまいりましょう。

祈ります。

私たち一人ひとりを、「かけがえのない娘」「大切な息子」と呼んでくださる神さま。
ここに、あなたの子どもたちが集っています。なんという大きな喜びでしょう。
あなたの喜びが、ここに映えているのです。神さま、感謝します。

この世界の闇を、私たちは知っています。それは深いのです。
でも、あなたの輝きを携えて、私たちは自分の住まいへ帰ります。
ここで、私たちは、互いの輝きを照り返しあっているのです。
「闇は光に打ち勝たなかった」と、聖書にありました。
神さま、どうぞ、その言葉を、真実のこととして下さい。

ここまで、熊本大会を守ってくださったことを感謝します。

イエス様のお名前で、祈ります。

アーメン

献金をいたしましょう。献金は、神さまへの感謝の徴（しるし・サイン）です。徴があれば、その徴が指し示すものを、思い出すことが出来ます。献金は、神さまがたくさん恵んでくださっていることを、私たちに思い起こさせるための、一つの仕掛けです。

ご一緒に、「アメイジング・グレイス（讃美歌 21・451 番）」を、英語で歌いながら、献金をいたしましょう。くりかえし、しばらく、この歌を歌いつつ、心を静め、また、心を天に向けて、感謝の思いを掴んで参りましょう。

Amazing grace! How sweet the sound!
That saved a wretch like me!
I once was lost, but now I am found;
Was blind, but now I see.

しばらく静まってください。

一人ひとりに、神さまに託されたものがあります。

見えるもの・みえないもの、能力も時間も力も、

自分のもの、と思っていたものは、実は、神さまからお預かりしたものにすぎません。

ということは、神さまが、それだけ、期待しておられるということです。

その期待の有難さに、心を向けましょう。

最後に、古い日本語の讃美歌（讃美歌 21・29 番）で神を称え、
神の祝福のことばを聞いて、
この時間を終わります。

あまつみたみも 地にあるものも
Amatsu mitamimo Chi ni aru Mono mo

父子聖霊なる 神を称えよ とこしえまでも
Chichi Ko Seirei naru Kami wo Tataeyo Tokoshie mademo

**(All people in heaven and on earth praise the Triune God,
Father, Son and Holy Spirit, forever and ever.)**

祝福のことば：

あなたの前に
いつも道が拓かれますように

風が あなたの背中を押してくれますように

太陽が あなたの顔を温かく照らしますように

雨が あなたの行く所 いつも優しく降り注ぎますように

そして
私たちが再び会う日まで
アラーと呼ばれ・主と呼ばれる、聖書の神さまが
あなたを その手のひらで 包んでくれますように

主イエス・キリストの御恵み
父なる神の御慈しみ
聖霊なる神の豊かなる御交わりが
汝ら一同と 限りなく共に あらんことを

アーメン